

令和5年度 新宿区子ども未来基金 助成活動報告書



令和6年3月

【問合せ先】

新宿区子ども家庭部子ども家庭課企画係

〒160-8484 新宿区歌舞伎町 1-4-1

TEL : 03-5273-4261 (直通)

FAX : 03-5273-3610

E-mail : ko-kikaku@city.shinjuku.lg.jp

令和5年度新宿区子ども未来基金助成活動（13活動）

番号	活動名	団体名	代表者	活動内容	問合せ
1	ユニコーン	西新宿子ども食堂 (任意団体)	代表 北村 穂子	子ども食堂	Tel : 080-5499-0746 Mail : childrens.dining@gmail.com (担当 : 北村)
2	新宿子ども食堂 たんすまち	新宿子ども食堂たんすまち (任意団体)	代表 齋藤 宏子	子ども食堂	Mail : shinjuku.kodomoshokudo@aol.jp (担当 : 齋藤)
3	かしわぎ子ども食堂	かしわぎ子ども食堂 (任意団体)	代表 佐藤 文子	子ども食堂	Tel : 090-1207-4919 (担当 : 佐藤) Tel : 090-2237-5416 (担当 : 井上) Mail : kasiwagikodomo@gmail.com
4	ニコニコ子ども パントリー ピックアップ	特定非営利活動法人キッズ 未来プロジェクト	理事長 猪爪 まさみ	フード パントリー	Tel : 090-3904-2801 Mail : kodomo2525s@yahoo.co.jp (担当 : いのつめ)
5	ごはんと学びfor 東京キッズ	Tokyo Kids Supporter (任意団体)	代表 平川 ミア	・子ども食堂 ・学習支援	Tel : 080-3345-1370 Mail : tokyokids21@gmail.com (担当 : 平川)
6	子ども劇団「333」	特定非営利活動法人 東京ソテリア	代表理事 野口 博文	演劇による 表現活動	Tel : 03-6709-9733 (担当 : 高田)
7	歌舞伎町みらいカフェ	公益社団法人 日本駆け込み寺	代表理事 天野 将典	子ども食堂	Tel : 03-5291-5720 Mail : info@nippon-kakekomidera.jp (担当 : 助川)
8	子ども食堂	Walボランティア部 (任意団体)	代表 仲吉 航一	子ども食堂	Tel : 090-5529-0194 Mail : c.new-life2003.k@docomo.ne.jp (担当 : 田中)
9	サンの家食堂	社会福祉法人サン	理事長 新井 茂	多世代食堂	Tel : 03-5272-2488 (代) Mail : sun.chiikirenkei@gmail.com (担当 : 矢澤)
10	外国ルーツの青少年の「居場 所みんなのおうち」での食事 提供	特定非営利活動法人 みんなのおうち	代表理事 小林 晋子	子ども食堂	HP : https://minnano-ouchi.jp (担当 : 小林)
11	多文化交流会	特定非営利活動法人 みんなのおうち	代表理事 小林 晋子	食事を通じた 多文化交流	HP : https://minnano-ouchi.jp (担当 : 小林)
12	休日お預かりデイ活動	特定非営利活動法人 えがおさんさん	代表理事 田中 歩	障害児・兄弟のお預か り型日中活動	Tel : 03-3209-8668 Mail : info@egaosunsun.com (担当 : 阪口)
13	う〜みやスマイル子ども食堂	株式会社 アムズシーヴィエス	代表取締役 大庭 正広	・子ども食堂 ・学習相談室 ・料理体験イベント	Tel : 03-6280-7886 (担当 : 高江・仲地)

活動名：ユニコーン
団体名：西新宿子ども食堂

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎月第2・第4金曜日 17:30~19:00
開催場所	角筈地域センター 7階クッキングルーム
対象者	子ども、保護者

活動紹介

地域の子どもたち、保護者や忙しい子育て家庭の親子への食事の提供、子ども向きメニューと安心できる食材を使い家庭の味を大事に、調理をしている。現在は事前予約制でお弁当の配付をしている。

参加費は子ども無料（高校生まで）、保護者は300円。また、非課税世帯・ひとり親家庭は無料である。

活動を始めた目的

- ・貧困家庭、ひとり親家庭、社会的弱者に寄り添い子どもたちや子育て家庭に「食」を通じて支える活動をする。
- ・困窮家庭の子どもの養育環境など身近な課題について解決に向けた働きかけを行う。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

【活動回数】	計21回
【参加人数】	幼児 延べ421名
	小学生～高校生 延べ680名
	大人 延べ640名
	ボランティア 延べ72名

その他の活動として新宿こどもネットワークの活動へ参加した。



活動をしていく中で感じたこと

- ・コロナ禍の影響で、保護者の仕事が減り経済的に困っている家庭がある。また、障害のある子どもを抱えているため常勤の仕事ができず、経済的に困っているシングルマザーがいる。
- ・経済的に貧しくなくても、家庭の事情で子どもの孤食、貧食があり、参加することで補われている。
- ・地域で活動が広まり、企業や個人から食材・食品等の寄付が増えた。継続的に支援をしてきている。
- ・スタッフの高齢化で、長い時間の作業はつらく休む人もいる。地元の企業からボランティアで調理と受付に毎回お手伝いに来ているが、引き続き、若いスタッフを募集している。

アピールポイント

- ・栄養満点の温かい食事を地域のボランティアスタッフが作っている。子育てママも応援している。
- ・子どもたちや保護者においしいと好評で、やりがいにつながっている。
- ・子どもは地域の宝、子どもを地域で支え、育てる、子どもの笑顔が広がる居場所である。
- ・民生児童委員と連携している。
- ・子どもたちへ毎回季節を感じる可愛い折り紙をスタッフが手作りで配っている。

活動名：新宿こども食堂たんすまち
団体名：新宿こども食堂たんすまち

活動内容	子ども食堂
開催日時	月1回 15:00~18:30
開催場所	大龍寺
対象者	ひとり親家庭、住民税非課税家庭、 発達障害の子をもつ家庭、親が障害 や疾病を持つ家庭

活動紹介

現在は利用者が増えたことに伴い、地域センターでの会食が難しいため、お弁当の配付に切り替えて活動を継続している。

寄付品、寄付金で購入した食品や日用品のパントリー事業も自主事業と併せて実施している。

活動を始めた目的

発達期の栄養不足と、社会からの孤立が子どもたちの将来に及ぼす影響をなんとかしたいと、公衆衛生大学院の同級生の医師、保健師、看護師、管理栄養士などが集まり、食と繋がりの方で介入できる子ども食堂を開始。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

計 11 回活動

	利用者数	ボランティア
4/9	58	10
5/21	63	10
6/4	56	9
7/22	47	7
8/27	54	8
9/18	67	8
10/8	55	11
11/12	73	12
12/17	71	18
1/28	66	12
2/18	65	11



活動をしていく中で感じたこと

近年は高校卒業まで利用する家庭が増えており、子どもの割合は1~18歳まで同じくらいである。

利用家庭の高校生6名がボランティア活動に参加しており、中学生に対しては同じ環境の先輩として良いライフモデルとなっているようで、子どもからも保護者からも人気者となっている。

子どもが高校生まで大きくなると親は病気になるリスクが高まる年代となるためか、今年度は2世帯の親が1か月以上入院する事態が発生した。しかし、高校生に対する支援は世の中に少なく、ひとり親の保護者が入院し、子どもだけで生活するようなケースがあることが分かった。

アピールポイント

- ・地域の仕出し店と協働して、食品安全衛生上、安心できるお弁当をお渡ししている。また、会食していた頃から大盛やおかわりを楽しみにしてくれていた方が多いので、ご飯は大盛で提供している。

- ・活動に協賛金がつくことがあり、その場合は季節感を演出した献立にして、利用者にとっても喜んでもらっている。

活動名：かしわぎ子ども食堂
団体名：かしわぎ子ども食堂

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎月第2・第4木曜日 17:30~18:30
開催場所	柏木地域センター 調理室
対象者	子ども、保護者

活動紹介

地域の子どもたちが、体だけではなく心にも大切な「食」を通して、健全に生きるための支援を行う。令和5年度からは会食を再開。参加費は子ども100円、保護者は300円、幼児無料。

活動を始めた目的

子育て世代と一緒に食事をとることにより、食事の楽しさや人とのふれあいで豊かな気持ちを持ち続けられるような居場所を提供したいとの目的で始めた。保護者も食事作りから解放され、ゆっくり子どもと向き合っ一緒に食事ができる一助になればいい。

料理を作るスタッフにとっても子ども食堂は居場所である。支援する側とされる側に分かれることなく、この食堂に集うすべての人たちで居場所を作っていきたい、と思っている。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

【活動回数】計22回

	大人	子ども	ボランティア
4月	63	86	18
5月	65	87	18
6月	33	46	17
7月	41	60	19
8月	38	59	20
9月	41	70	24
10月	49	70	23
11月	48	68	21
12月	72	85	19
1月	55	74	21
2月	52	68	19



活動をしていく中で感じたこと

- ・昨今の物価高騰のため経済的余裕がなくなり、家族全員での参加が増えた。
- ・物価高でのやりくりに不安もあったが、米・野菜やデザートなどの寄付もあり、充実した食事の提供ができたことは多くの支援者によるものだと感じている。
- ・ブログから申込みをされた方も多く、よく見られている事を感じている。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことから、昨年6月からは一部弁当提供を残しつつ、会食形式にて活動している。会食形式でも父親の参加は増えており、家族で参加するケースが増えた。

アピールポイント

季節を感じてもらえるような、栄養満点・バランスの良い献立作りを心がけている。ボランティアに若い方が多くなっているので、調理法や食材の利用も多様になり、老若問わずお互いに勉強し合っ気軽に参加できる雰囲気ができていることは、参加者にも良い影響を与えているように思う。



活動名：ニコニコ子どもパントリーピックアップ
 団体名：NPO法人キッズ未来プロジェクト

活動内容	フードパントリー
開催日時	毎月第4土曜日 13:00~16:00 毎月第4日曜日 10:00~15:00
開催場所	新宿区大久保地域（非公開）
対象者	生活保護・児童扶養手当・非課税・離婚調停裁判中・緊急に食材支援が必要な子どもがいる家庭

活動紹介

経済的困難を抱える子どもがいる家庭を対象に、食材や日用品を秘密基地に取りに来ていただいている。

認定非営利活動法人セカンドハーベストジャパンから消費期限が近い寄付食材を受け取り、自立支援として配付することで、食品ロスにもつなげている。

活動を始めた目的

- ・子ども食堂で食事支援するだけでなく、家庭への食材支援が必要と感じた。
- ・遠方で子ども食堂を利用できない家庭でも月に1度なら取りに来られると思い、活動を始めた。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

【参加世帯数】 44 世帯が登録

	利用世帯数
4月	42
5月	41
6月	42
7月	40
8月	32
9月	33
10月	34
11月	33
12月	35
1月	38
2月	33



活動をしていく中で感じたこと

- ・当日、急な発熱などで休む家庭が多かった。
- ・野菜、果物、肉等、生鮮食品が喜ばれる。
- ・防災備蓄品は飽きが来ているように思う。企業は貧困家庭に食べさせるのではなく、自社で解決して欲しい。
- ・物価高で生活が厳しくなっている。

アピールポイント

- ・期限切れで廃棄される食品ゴミの減量に寄与している。
- ・買い物をする気分を味わってもらえる。
- ・お米の質をあげるなど、持ち帰る人が増える工夫を行っている。



活動名：ごはんと学び for 東京キッズ
団体名：Tokyo Kids Supporter

活動内容	子ども食堂・学習支援 (地域のごちゃまぜ交流の場)
開催日時	毎月第4月曜日 ごはん 17:00~18:00 学び 16:00~19:00
開催場所	若松地域センター
対象者	高校生までの子ども、その保護者

活動紹介

温かくて美味しいごはんは幸せと笑顔を生み、楽しい学びは知的好奇心や意欲の向上につながる。ごはんと学びは地域の子どもの居場所として、みんなで楽しいごちゃまぜ交流を大切にしている。

活動を始めた目的

誰でも気軽に交流できる地域の居場所づくりとして、また、悩みなどを抱える子どもやその保護者が孤立しないように見守るために活動を始めた。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

【活動回数】 計 11 回

【参加人数】 平均 37 名

活動をしていく中で感じたこと

参加する子どもたちの年齢や地域はさまざまだが、お手伝いやお片付け、本を読んだりゲームをしたりすることで、楽しいごちゃまぜ交流が生まれている。また、ごはんづくりにも関わってもらうことで、スタッフとの自然なコミュニケーションの中で、生活スキルを学ぶ良い機会にもなっている。



人とのつながりが軽薄になりがちな都心で、こうしたさまざまな人との関わりは非常に重要であり、助けあい支えあうこと、他人を尊重することなど重要な学びになっていると感じている。

スタッフが子どもたちの良い面をたくさん見つけることで、家庭や学校以外で褒められることが刺激になり、子どもたちのポジティブな感情を引き出している。こうした取り組みが保護者の安心にもつながるのではないかと期待している。

アピールポイント

ごはんと学びでは、誰でも気軽に立ち寄れる地域の居場所として、さまざまな参加者を受け入れている。自習しに来る子、障害がある子、お世話好きな子、日本語が苦手だけど話したい子…こうしたごちゃまぜ交流を通して、子どもも大人も一緒に楽しい時間を過ごせるような環境づくりを目指している。

自慢のごはんは栄養バランスを意識し、参加者からは高い評価を受けている。みんなで食べることで楽しい交流や食育の良い機会となっている。

また、学びの教材は幅広く取り揃えており、特に学習障害に対応するものや、専門性の高い英語教材、保護者向けの本も用意している。ゲームもあり、さらに困りごとへの対応のための学習支援（指導）や相談も行っている。

活動名：こども劇団「333」
団体名：NPO法人東京ソテリア

活動内容	演劇による表現活動
開催日時	月2回 土曜日 13:30~15:00
開催場所	・さんさんハウス (四谷1-10-5) ・四谷保健センター
対象者	小学生 ※障害の有無などは問わない



活動紹介

障害のある子どももいない子どももともに表現活動を通して、自由に自己を発揮できる場をつくる。インクルーシブな環境での表現活動ワークショップの中で、自己表現を通して他者とのかかわりや、ありのままに認められる体験を重ねられる場を作ること、「障害のある子どもも、そうでない子どももともに主役になれる場」をつくる。

活動を始めた目的

平成30年より当法人ではイタリアの精神障害当事者の演劇集団「アルテ・エ・サルデー」の招聘を行い、演劇公演を各地で行ってきた。以降、表現活動のワークショップを通じて、自由に自己を表現する場の確保の重要性を感じてきた。

令和3年5月に新宿区にて、障害のある子どもを対象とした短期入所事業、日中一時支援事業を開始し、同時に、障害の有無を問わずあらゆる子どもがともに、ありのままの表現活動ができる機会を作るために「劇団」として活動を開始した。また、同場所にて精神疾患のある親の子どもへの支援も行う中で、家族に病気や困難があっても、ありのままに認められる知見は、子どもの健康な育ちにつながることを信じ、活動を開始・継続したいと考えた。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

【活動回数】計14回

【参加人数】

	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
延べ人数	1	8	4	10	3	3	1	4

活動をしていく中で感じたこと

＜成果・やってよかったと思うこと＞子どもたちが真剣な表情や、嬉しそうな姿勢で体を動かしている様子が、言葉ではなく直感的に伝わってきた。人間同士が、言葉を用いずとも繋がれる存在であると知ること、子どもたちのみならず、スタッフや学生ボランティアにとっても非常に豊かな経験となった。

＜反省点・改善点＞安全な環境で、集中力を持って活動に向かっていく雰囲気を作ることは、インクルーシブな環境の中では難しい点もあった。活動の前に、参加する子どもたちの特徴や特性をスタッフ間で詳しく共有し、活動内容をその日の子どもたちに最適化させていくことで、安全で集中できる環境を作っていくことが必要と感じた。

アピールポイント

講師に、「なにぬの屋」の渋沢やこ（渋沢康子）さんをお迎えし、大学生のボランティアと一緒に、表現あそびを通して互いを知り合えるようなあたたかい時間を過ごすことを大事にしている。

歌が好きな子は歌を、楽器が好きな子は楽器を、絵を描くことが好きな子とはお絵描きをと、子ども本人のペースと興味を大切にしている。

活動名：歌舞伎町みらいカフェ
団体名：公益社団法人日本駆け込み寺

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎週土曜日 13:00~18:00
開催場所	公益社団法人日本駆け込み寺事務所内 (歌舞伎町2丁目42-3林ビル1階)
対象者	通称“トー横キッズ”を含む歌舞伎町シ ネシティ広場付近に集まる未成年者、 近隣の小学生、保護者



活動紹介

旬の野菜や、農薬・飼料に配慮した食材を活用した料理の提供をしている。当日用意した料理が無くなった場合でもあり合わせの食材で提供し、時間内に来た子どもが、何も食べられずに帰るといった事態を避けている。

子ども達からのリクエストを元に、週初めに食材支援者の農家さんと献立の打合せを実施。

あえて通常よりも食事提供を待たせる時もあり、「すぐに食べられること」が当たり前ではないという意識を持たせる工夫も行っている。

活動を始めた目的

社会問題となっているトー横キッズと呼ばれる子ども達の抱える悩みを解決するため、食事を通して信頼関係を構築し、相談しやすい環境をつくり、問題解決へのきっかけを提供する。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

	参加人数
4月	175
5月	169
6月	134
7月	190
8月	110
9月	155
10月	178
11月	157
12月	225
1月	243
2月	233

活動をしていく中で感じたこと

約1年半の活動の中でトー横に集まる子ども達の移り変わりを見てきた。自立に向けて自分から立ち上がる子、周りが変わっていくのを見て変わろうとする子、進学のため受験勉強を始める子、相変わらずな子と様々な子がいるが、共通点は皆たくましく生きているという事だった。大人から見ると危険と思われることをしていることも少なくはないが、彼らは彼らなりに考えて生きている。

度が過ぎた行為を諷める事は必要だが、同時に子ども達が生きづらさを感じない社会をつくる必要性もあると強く感じている。引き続き、子ども達の言葉に耳を傾けながら必要な支援を模索していく。

アピールポイント

様々な事情を抱えた子ども達が集まる歌舞伎町みらいカフェでは、利用する子ども達からの相談を受けることも少なくないが、まず前提として元気がないときや悩みがあるときに空腹ではダメ。しかし、腹いっぱいになれば何でも良いわけでもない。こだわられる範囲で食材に配慮して、出来立ての手作り料理をみんなと一緒に囲んで食べるのが大切と考えている。「田舎のおばあちゃんち」のように、来たいときにフラッと寄って、元気な顔を見せてくれるような温かい食堂を目指している。

活動名：こども食堂
団体名：Wa! ボランティア部

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎月第3土曜日 12:00~14:00
開催場所	沖縄料理Wa!North店 (北新宿3-9-10)
対象者	18歳未満の子ども、保護者

活動紹介

飲食店(Wa!North店)の営業時間外を用いて、子ども食堂を行っている。食事だけでなく、塗り絵や不定期開催でイベントも行っている。

参加費は18歳未満の子どもは無料、その保護者は300円である。

活動を始めた目的

人間関係が希薄化しているといわれる課題の中で、ひとり親家庭や貧困家庭の親や子供への食事や活動の場の提供等による支援を行いたいと考えた。

令和5年度活動実績(令和6年2月末時点)

【活動回数】

合計11回(月1回)

【延べ参加人数】

子ども 103名

大人 56名

活動をしていく中で感じたこと

この活動が、親や子ども同士の意見交換等の場となっていることや、育児のレスパイトの効果を与えられていると感じており、徐々に参加者が増えてきていることを踏まえると、これからも続けていきたいと思っている。



アピールポイント

食 事：毎回手作り

食事後：毎回塗り絵を準備

不定期にてイベントの開催
(すいかわり等)

体 制：常時3人のスタッフが常駐しており、参加者への声掛けを積極的に行っている。



活動名：サンの家食堂
団体名：社会福祉法人サン

活動内容	子ども（多世代）食堂
開催日時	毎月第1・第3金曜日 13:00~20:00
開催場所	サンの家（高田馬場1-20-1）
対象者	様々な事情を抱えた子ども家庭や 近隣の方々

活動紹介

お弁当または会食での食事提供を月2回行っている。9月からは月1回、大学生とのコラボレーションにより、子ども食堂を行っている。

活動を始めた目的

地域住民の過去の経験などから食堂を行いたいという気持ちがある一方で、食を必要とする家庭があるといった地域の実態も踏まえて、法人の地域貢献の理念と合致したため。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

<毎月第1・3金曜日開催分>

【活動回数】22回

【参加人数】合計1,758名

大人762名、子ども859名

ボランティア137名

<大学生とのコラボ子ども食堂>

【活動回数】5回

(9/9、10/29、11/26、1/28、2/25)

【参加人数】合計60名

大人8名、子ども29名

ボランティア23名



活動をしていく中で感じたこと

開催を始めた目的の1つである「食を必要とする家庭」は確かにあり、必要とする理由として経済的なものや保護者の疾病や障害、家庭環境など様々なケースがあることを実感している。一方で、上記以外でも家事の負担軽減（ワンオペなど）や他者との交流をしたいなどの理由もある。いずれにせよ成長期である子どもに対する食事は大切なもので、継続的な提供をしながら安心して居られる場所を提供することが大切だと感じている。

アピールポイント

いつも多くの方にご利用いただき、大変感謝している。地域のボランティアのお力を借りて、毎回賑やかに楽しみながら調理など準備をしている。お弁当のお渡しや食事を配膳するだけでなく、他愛もない日常の会話や子ども達との掛け合いがあってこそ、楽しく過ごしていただける場になっていると思っている。

食堂のご利用以外でも、法人としてのイベント（お餅つきやカブトムシ交流会など）もお声掛けさせていただいている。

何か支援をしている、されているという考えなしにみんなが穏やかに過ごせるよう地域との関わりに努めていく。

活動名：外国ルーツの青少年の「居場所
みんなのおうち」での食事提供
団体名：NPO法人みんなのおうち

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎週月・水・金 17:00~20:00
開催場所	居場所みんなのおうち
対象者	外国にルーツのある青少年

活動紹介

「居場所みんなのおうち」では新宿区内に在住する外国にルーツのある青少年に日本語と教科学習支援を実施している。また、自習場所としても利用されている。その学習等に集まった、夕食をとれていない外国ルーツの青少年に食事を提供している。

小学生は18時まで、中学生以上は20時まで利用可能。

活動を始めた目的

外国にルーツのある青少年は地域に居場所がない、貧困により家庭に学習場所がない、日本語が不十分なために学習に困難を抱えているという現状がある。相談場所が無い等の問題解決に向け平成29年に新宿区大久保地区に「居場所みんなのおうち」を開設した。活動をしていく中で、夕食をとれていない子どもがいたため、学習の前に空腹を解消するために、居場所での食事の提供を始めた。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

	食事提供数
7月	36
8月	64
9月	48
10月	51
11月	34
12月	42
1月	52
2月	55



活動をしていく中で感じたこと

「居場所みんなのおうち」を平成29年に開設し、外国にルーツのある青少年の居場所、自習や学習の場所、希望者への夕食提供を行ってきた。初めは週6日で活動していたが人手が足りず、現在は週3日で活動している。

活動をしていくうちに、食事をとれていない子がいるというだけでなく、家庭で虐待をうかがわせる様子があるケースにも直面した。また、食事や勉強だけが目的ではなく、家庭や学校の話聞いてほしい様子の子もいることがわかった。

他にも、外国人保護者は言葉の問題を抱えているが、進学、育児、教育、就労、夫婦関係などの家庭問題を相談できる先がなくて困っている事もわかった。

アピールポイント

外国ルーツの青少年だけではなく、その保護者も含め長いスパンで寄り添い支援をし続けている。また、いつでもどのような内容の相談でも受け付け、必要であれば公的機関や弁護士など専門家に繋げる準備もある。

活動名：多文化交流会
団体名：NPO法人みんなののうち

活動内容	食事を通した多文化交流会
開催日時	令和5年12月23日（土）
開催場所	大久保地域センター
対象者	新宿区内在住外国ルーツの人々と日本人地域住民

活動紹介

当団体は新宿区内に在住する外国にルーツのある家族や青少年支援を行っている。区在住外国人は他の国の人や日本人との交流がほとんど無いので、各国の料理を通して、各国コミュニティーや周辺地域の日本人との交流を目指した「多文化交流会」を年1回実施している。

活動を始めた目的

外国にルーツのある青少年に学習支援をする中で、新宿区内には132カ国にも及ぶ国籍の人々が生活をしている事を知った。しかし、多くの人々が自国のコミュニティーに依存して生活し、他の国の人や地域住民との交流がない事を知った。外国ルーツの人々と地域住民が交流を図ることで多文化共生を実現したいと考えて「多文化交流会」を開催している。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

【参加人数】

高校生以下 56名
大人 43名
ボランティア 12名



活動をしていく中で感じたこと

「多文化交流会」は平成17年に開始したが、令和2年～令和4年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。4年ぶりの開催だったため初参加の人々も多かったが、来年もぜひ開催してほしいという要望が多くあった。参加した子どもたちが準備や後片付けを積極的に手伝う様子や、ハグをして久々の再会を喜び合う様子を見て、多文化交流会は今後も続けていく必要があると実感した。

アピールポイント

当団体は外国にルーツのある青少年やその保護者が新宿区内で安定した生活を送れるよう、地域の日本人住民と交流を持ってもらう活動を20年以上続けており、新宿区が目指す多文化共生に寄与してきたと考えている。



活動名：休日お預かりデイ活動
団体名：NPO法人えがおさんさん

活動内容	難病・医療的ケアなど障害のある子どもとごきょうだいも参加（お預かり）型の日中活動
開催日時	12月16日(土)10:00~15:00
開催場所	パルシステム東京（大久保2-2-6）
対象者	難病・医療的ケア児・知的障害児・発達障害児とそのきょうだい児

活動紹介

ご本人、ごきょうだいを一緒に安全な空間で医療福祉専門職スタッフがお預かりし、ご両親が一息つける事業を開催。

活動を始めた目的

さまざまな難病の子・医療的ケアの必要な子や障害児が地域で生活できるようになってきたものの支援の手や社会参加先は追いついていない現状がある。障害があっても元気な子どもたちのケアに親の疲労は蓄積している。しかしながら、障害や症状の多様性、専門性の高さからケアをできる人が限られている。またごきょうだいと一緒に参加できる先もほぼない。

当団体の子ども達の体調ケアを見られる医療福祉の担当者や、子どもたちと一緒に思い切り遊ぶ学生ボランティアがいることで、親も安心して自身の好きなことに使う時間を取って欲しいという思いからこの活動を始めた。

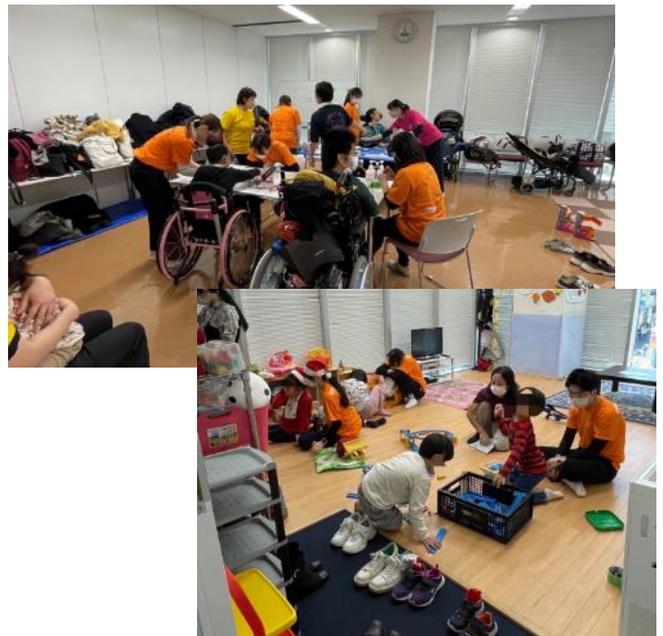
令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

【参加人数】ご本人6名・ごきょうだい3名
（そのうち初参加3名）

【スタッフ等人数】

医療職（看護師等） 5名
福祉職（介護士等） 4名
学生 15名
作業所勤務等障害当事者スタッフ 3名

*3月16日（土）に第2回開催



活動をしていく中で感じたこと

参加者の楽しそうな様子が見られ、ご家族からも高評価だった。今回きょうだい児の参加が全体数の1/3強あり、ご本人と同じ場所に預かることでのご家族の負担軽減が見られ、改めて医療福祉の専門職確保のニーズの高さを痛感している。一方で、週末も含め日頃の仕事がある中、プラスαでの活動となり対応できる専門職のマンパワーの確保調整に労力がかかった。

アピールポイント

- ・休みの日にどんな障害、どんな症状の子も参加できる場。
- ・個別性、専門性の高い子でも親御さんは安心して預けられ、自分の時間がとれる。
- ・きょうだいで参加でき、日頃我慢することも多いきょうだい児もオンリーワン体験できる。
- ・日頃関わることの少ない世代（学生ボランティア）と交流できる。
- ・多くの医療系学生が子どもたちの日常生活に触れることで、将来仕事として関わる際の経験となる。

活動名：う～みやスマイルこども食堂
団体名：株式会社アムズシーヴィエス

活動内容	①子ども食堂 ②学習相談室
開催日時	①毎日 16:00～18:30 ②毎月第3土曜 16:00～18:00
開催場所	沖縄すろ～ふ～どう～みや飯田橋神 楽坂下店（神楽坂1-9 森川ビル）
対象者	0歳～18歳（高校生）まで、保護者

活動紹介

子どもは無料、保護者は500円（初回無料）にて子ども食堂を毎日開催。予約なしでも参加でき、食事を希望しない場合でも開催中は居場所として利用可能。月1回学習相談室を開催しているほか、不定期で料理体験も開催予定である。

活動を始めた目的

食の事業者として、未来を担う子どもたちのために、まずは生きる土台となる「食」のサポートを行いながら、元気に食べ、遊び、学び、多くの人たちとふれあいながら、人の価値観や想いを感じ、子ども達が安心して過ごせる、地域にとって必要な場所をつくりたいと考えた。さらに、感動こども協会様との出会いがあり、アドバイスのおかげで子ども食堂を開設できた。

令和5年度活動実績（令和6年2月末時点）

<子ども食堂> 11月22日より毎日実施

【参加人数】31名

子ども19名（未就学児17名、小学生2名）

保護者12名

<学習教室> 12月16日 16時～18時

参加者が未就学児だったため、お絵描きと折り紙教室へ変更。

【参加人数】7名

子ども4名（4歳2名、6歳2名）

保護者3名



活動をしていく中で感じたこと

利用時のルール「こんにちは、いただきます、ごちそうさま、ありがとうございます」などの挨拶を自宅でもするようになった、たくさんの人と関わることにより人見知りが少なくなったなど、子どもの変化に関する声を利用者から聞くことができ、関わるスタッフも意欲的になり、本業の方でも笑顔が増えた。

調理スタッフも「子どもに喜んでもらいたい」との思いから、仕事に対する姿勢が変わった。

アピールポイント

- ・子どもの食事の支援、孤食の解消
- ・ルールとして「こんにちは」、「ありがとうございます」、「いただきます」、「ごちそうさま」など元気に挨拶をする。食堂を通して基本的な礼儀が身につく。
- ・自分でできることは自分です。おにぎりつくりや、お絵描きなど、様々なことに挑戦することにより、できたときの喜びや、何事にも挑戦する意欲につながる。
- ・毎回違うスタッフや利用者に関わることにより、人と関わる喜び、人間関係構築につながる。
- ・安心して過ごせる居場所を提供できる。

